

2012年8月よりカリフォルニア大学バークレー校のPhD過程に所属しています、森です。ふと気づくと渡米してから4年とちょっとが経過していました。簡単に近況報告をさせていただきます。

1. 研究について

行き詰っております！！イエー！！と、いきなり元気だけはいっぱいですが、マズいです。あと計算さえあればうまくいきそうなどこですが、中々うまくいかないし人生思い通りになりません。幸運を呼び込むドラゴンの刺繍入りの金色の財布（ついでに金運もアップするらしいです）や身につけているだけで勝ちまくり人生を送れる開運ブレスレットの類の購入を検討しております。同じデータを見続けて僕は一体何ヶ月、否、何年経過したのでしょうか。同じデータをずっとみていると、不思議とただのノイズが徐々に意味を帯びてくるようにみえてきます。ノイズが自分の欲しかったデータに見えてくるのです。壁や天井のシミや模様が人の顔とかに見えてくるアレです（本当にどうでもいいのですが、今住んでいる家のトイレのドアの木目調が最近ゴリラに見えます、二匹います）。よく体験するこの現象を僕は一体何回繰り返すのでしょうか…自分の想像力豊かな（というか無能な）右脳が憎いです。

とは言いつつも、最後の1ピースが足りないだけで、まあその他の部分はまとめられるな、ということで論文的なブツを書こうとしている最中です。こういうやることが増えてきた時にできる人間っぽく to do リストなるものを作成します。簡単にいうとやることリストです。いっちょまえに様々なタイムスパンでの to do リストを作成します。イケてる多忙なビジネスマンのごとく。今日中にやること、今週中にやること、今月中にやること——そして to do リストを作成したことで満足して何も do できずに終わる——よく体験するこの現象を僕は一体何回繰り返すのでしょうか…

僕はかなり理想家なののでしょうか、to do リストを作ると 200%こなせない量と質で埋められた夢のリストを作ってしまうし、完璧主義な僕はどうせ達成できないのなら半端に済ませるよりはっそのこと全部しなくていいやっとなるので、to do リストを作成した、ということ以外何も起きずに1日が——というか人生が——終わるのである…一体この過ちを僕は何回繰り返すのか…

と、前置き(?)が長くなりましたが、行き詰まっていたプロジェクトの他に、こっそりと新しいプロジェクトを始めました。今までやっていた事とは無

関係の完全に独立したものです。背景となる物理を理解することや解釈することが難しいですが、元々の興味に沿ったプロジェクトなのでそれなりに楽しんでやれている気がしています（幻覚かな）。先に述べたような、ノイズが自分の欲しいデータに見える現象にウンザリしていたところ、逆にノイズだと決めつけていた部分をよくよく調べたら意味のあるシグナルであったりして、もう何も信じられないという状態です（いい意味で（たぶん））。同様にもしかしたらトイレのドアのゴリラ達にも意味があるのかもしれませんが。

さて、このコッソリ始めたプロジェクトですが、アグレッシブな人（という表現で表しているのかわかりませんが、良くも悪くも積極果敢で自己主張が強くプライドが高い感じの人）が関わってきて、今までの研究生活で体験したことのない階層の悩みができました。土足でズケズケと入ってきては、プロジェクトをリードしようとする。もちろんリードしてくれるなら僕はそれで構わないのですが、肝心の知識も手法も持ち合わせていないのでリードできるわけもなく、そのくせこちらが何をやるにしても毎回突っかかってくるので、その度に説明・説得するという不毛な時間と衝突にストレスがたまります。一体どうしていいのかわからなく、教授も含めて色々な人に相談したところ、「コレがヤツのやり方だから気をつけろ！」と注意を促され、「とりあえず（物理的に）距離をとれ！」という単純な解が出たので文字通り顔を合わせないようにコソコソ逃亡しています。しゃべりは上手いので表面上の見てくれはいいけど、実際は何もわかっておらず、しかし持ち前のアグレッシブさで成果にこぎつける、そういう人もいるのか…と闇の世界を垣間見た気がしました。いつかは話し合う予定なのですが、万が一で白兵戦になったらこの手で屠れるようなタフガイにならなければ…というところで、心の to do リストに筋トレをそっと追加しました。たくましく生きたいです。

2. 研究室について

自分の過去の報告書を眺めていたところ、研究や英語などについてフワリとした自虐的な感想を述べるというパターンばかりで、あまり具体的な情報がないかも、と気づきました。すいません。今回は少し僕の働いている研究所について書きます。僕の所属している研究グループは、大学の物理学科所属ですが、同時にローレンスバークレー国立研究所というキャンパスに隣接している研究所の材質科学研究科（無理やり和訳しました）にも所属しています。そし

て研究室のオフィス自体も大学キャンパスにはなく、国立研究所の方にあります。キャンパスに隣接と書きましたが、丘に沿っている大学キャンパスの、丘の上の方側に隣接しており、というか研究所は丘というよりは山の上にある感じですか。山なのでさすがに徒歩はしんどく、「Bringing Science Solutions to the World」という渋いラベルの貼ってある研究所専用のシャトルバスにのって通ります。野生の七面鳥、鹿、スカンク、狐、狸、アライグマ、ヒト、時々マウンテンライオンなどが出没するワイルドな環境です。バカと煙は高いところが好きとありますが、僕も例外なく眺めの良い高い場所が好きで、山の上にある研究所からの景色がとても気に入っています。大学のキャンパスとパークレー市 (Fig1 手前)、ゴールデンゲートブリッジ (Fig1 右奥)、そしてサンフランシスコ市 (Fig1 左奥) などを望むことができます。昼間の眺めもちろんですが、夕日が沈んでいく様子や、夜景も綺麗で、そして日によって違う色合いを見出すことなどができて本当に美しく、荒んだ心も洗われます。



Fig1| 研究所からの風景

3. 最後に（雑感）

いつの間にか渡米4年以上が経過しており、時の流れの速さを感じます。4年といったらモルモットや金魚あたりの生き物の一生分ですが、それがこんなに一瞬で過ぎ去るとは恐怖すらおぼえます。渡米前の「アメリカで5年とか超長

いし、どうなるんだろう」とか考えていた自分に一言ビシッと言いたいところ
です、「5年なんてあっという間に時は過ぎるし、あとお前は色々あって5年じ
ゃ終わらないからね！」と。人生まだまだ長いと言いながら余裕かましていた
ら、この調子だと一瞬で何も成し遂げないまま死にかねないので、そのとこ
ろを念頭において生きるべきですかね。(が、がんばります)